

国語 第1学年 あひるのあくび

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある6月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいか」を問い、繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認して音読する。響きと読み方の記録の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確認する。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
〔第1学年及び第2学年〕A 話すこと・聞くこと(1)ウ	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確認、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話す。語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読する。思考・判断・表現では、繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認して音読する。交流や試行の前後を比べ、響きと読み方の記録を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音と文字の関係や発音を確認、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読している。 （〔知識及び技能〕(1)イ・〔知識及び技能〕(1)ク）	①「話すこと・聞くこと」において、繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認して音読している。（A(1)ウ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○言葉の響きとまとまりに関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す響きと読み方の記録の内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2 （本時は2時）	○繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認して音読する。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	3	○響きと読み方の記録を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



本時の案

本時の目標：繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認めて音読することができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時までの記録を確認め、今日使う教材や資料を準備する。 ○「音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいか」 【めあて】言葉の響きとまとまりについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音が続くところを声に出すと面白い。 ・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。速く言うことだけを目標にする姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認めて音読する。 3 話し手と聞き手を交代し、相手が伝えた内容を確認めて質問や応答を返す。 4 「音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいか」を観点に、伝わった内容と伝わりにくかった点を確認め、もう一度話したり聞いたりする。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音が続くところを声に出すと面白い。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	ゆっくりした読みから始め、音を落とさず言える速さで試す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確認め、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認めて音読している。(A(1)ウ) (発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録)
まとめ (分)	5 響きと読み方の記録を確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】声の出し方は、音の特徴と聞き手への伝わり方を確認めながら調整する。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（響きと読み方の記録と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には言葉の響きとまとまりを確認める語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に響きと読み方の記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまづきやすい所と手当て

予想する難しさは、速く言うことだけを目標にすることである。ゆっくりした読みから始め、音を落とさず言える速さで試す。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

響きと読み方の記録
「音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。ゆっくりした読みから始め、音を落とさず言える速さで試すための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード
初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606_mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重